

# 保健現場 レポート

福祉保健課  
保健師  
松本 朋子

378

## ☆☆胃がん対策事業「ピロリ菌抗体検査」について☆☆

今年度も6月から住民検診が始まりました。今年度は新規事業として、胃がん対策事業「ピロリ菌抗体検査（リスク層別化検査）」を実施しています。「ピロリ菌抗体検査」を実施することにより、胃がんの早期発見、発症する危険性を低下させることを目的としています。

今回は日南町住民検診で受けられるピロリ菌抗体検査についてご紹介します。

【申し込み問い合わせ：福祉保健課：82-0374】



## 日南町住民検診で受けられる「ピロリ菌抗体検査」

【対象者】日南町に居住地を有する20歳～65歳の人で、過去にピロリ菌抗体検査を受けたことがない人  
(※対象年齢の基準：令和3年3月31日時点の満年齢)

【検査方法】血液検査により、ピロリ菌抗体検査とペプシノゲン検査を行います。  
(この2つの検査を『リスク層別化検査』といいます)

### 【実施場所・検査内容】

- ①集団検診（会場：日南町総合文化センター）：バリウム検査と血液検査を実施。
- ②医療機関検診（日南病院または江尾診療所）：胃カメラ検査と血液検査を実施。

【申込方法】①集団検診での受診を希望される方は、事前申込は不要です。  
②医療機関での受診を希望される方は、福祉保健課へお電話ください。



### 《検査を受けるときの注意事項》

- ・40～65歳の方は、原則胃がん検診とあわせての検査となります。ただし、40～49歳の方に限りピロリ菌抗体検査のみの受診が可能です。
- ・20～39歳の方は、ピロリ菌抗体検査のみとなります。胃がん検診は受けられません。
- ・過去にピロリ菌抗体検査を受け、除菌された方などは受診ができません。

### 【対象年齢と受けられる検査内容】

	胃がん検診 +ピロリ菌抗体検査	ピロリ菌抗体検査のみ	胃がん検診のみ
20～39歳	×	○	×
40～49歳	○(原則)	○	○
50～65歳	○	×	○
66歳以上	×	×	○

### 【ピロリ菌って何？】

ピロリ菌は胃の粘膜に感染する細菌のことです。感染すると胃粘膜が炎症を起し、胃酸によるダメージを受けやすくなってしまいます。ピロリ菌は一度胃粘膜に定着すると、ほぼ一生胃の中に存在し続けます。駆除するためには、医療機関で除菌治療を受けるしかありません。

ピロリ菌に感染し胃粘膜の萎縮が進むと、胃がん発症の危険性が高くなります。

### 【『リスク層別化検査（ピロリ菌抗体検査・ペプシノゲン検査）』では何がわかるの？】

- ・ピロリ菌抗体検査では、血液検査によりピロリ菌に感染しているかどうかわかります。
- ・ペプシノゲン検査では、血液検査によりペプシノゲンの量を調べることで胃粘膜の萎縮の程度を推測することができます。胃粘膜の萎縮が進行するほどに胃がんが発生しやすくなると言われています。ペプシノゲン検査が陽性ということは、萎縮性胃炎があると考えられ胃がんの危険性があると言えるのです。

### 【ピロリ菌を除菌して、胃がんを予防しましょう】

ピロリ菌抗体検査やペプシノゲン検査で陽性の判定が出た場合は、精密検査を受ける必要があります。ピロリ菌に感染している場合は除菌治療を受けましょう。

また、2つの検査が陰性であっても、胃がんを発見する最も有効な方法は「胃がん検診」を毎年受けることです。

ピロリ菌感染があるかないかを知り正しく対処することが大切です。ぜひこの事業をご活用ください。

